

月の館

信濃観月文庫

通信

おみ
麻績村

発行 / 信濃観月苑

長野県東筑摩郡麻績村麻 8059-2

TEL・FAX (0263)67-3933

第27号

歩歩起清風
ほほせいふうおこる

感謝



孟恒

麻績村
信濃観月苑
平成30年
8月



Noppe (東京青山)
個展会場にて夫とともに

望郷の手仕事

—瀬戸内の風を追う—

窪田 紘子

学生時代スキーで志賀高原に行ったのが初めての信州の旅でした。姨捨を走る列車の車窓から見る白銀の景色は箱庭のように見えて美しかったです。のちにこの地で暮らすようになるとは思ってもよらないことでした。

信州と縁が出来た一つ目は主人(注・窪田孟恒氏)の故郷が、姨捨から見た千曲市だったこと。主人は東京でグラフィックデザインの仕事をしていた頃に一冊の本と出会い、染織作家を仕事とする事になり、やがて千曲市倉科の杏の里に工房を作ります。

もう一つは、千曲市と愛媛県宇和島市が、杏が縁で歴史的な繋がりがあり、姉妹都市として交流があったことです。私は同じ愛媛県松山市が故郷です。

松山で過した頃、戦後の物のない時代を経て、日本は高度成長期に入り、新しいものが次々と出て来て、お金を出せば何でも手に入る、使い捨





ボジャギ (麻布に杏染)



天竺木綿手作りブラウスに刺繍



松山 (南海放送) テレビ番組

ては美德とさえ言われるよう
になりました。しかし、物の
ない時代に、母の着物が私の
洋服に生まれ変わっていった嬉
しさは忘れられません。
帯の芯地は私の鞆になりま
した。生成色の芯地には花の
刺繍がしてありました。作り
直した洋服や小物に惨めさを
感じることはなく、手作りの

温かさが伝わり、いつも嬉し
く思っていました。祖母や母
の姿を見て育った私は、手で
物を作る事が自然に一生の仕
事になりました。
「もったいない」とは物を
大切に思う気持ちがかもる言
葉です。身近に有る物を手
軽にリメイクをする楽しさ。
手をかけて作った物の愛おし



右のパッチワーク刺繍の部分



ジーンズブラウスにボタンにビーズ



パッチワーク (絹布に杏染)

さ。尊い資源は無限ではない
よと、最後まで物を大切にす
ることのヒントを提案してき
ました。

地元の愛媛新聞の家庭欄で、
そうしたヒントを毎週三年間
連載。南海放送局、信濃毎日
新聞、長野放送、テレビ信州
の番組でも、いろんな手芸、
手仕事を紹介してきました。

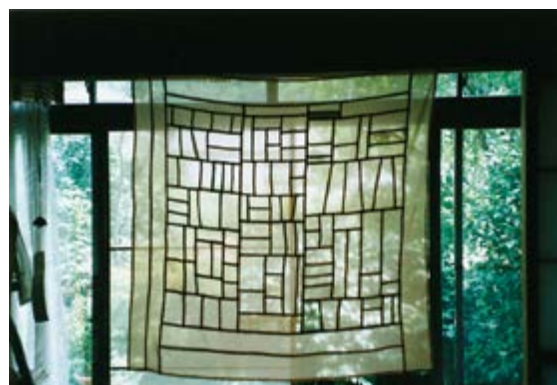
番組で紹介した作品は視聴
者の方々にプレゼントし手元
にはほとんどありませんが、
シーツ等に使う丈夫な天然木
綿でブラウスを仕立て袖にフ
ランス刺繍をしたものは、数
十年の時を経て今娘が愛用し
ています。

主人の仕事は、デザインか
ら糸を染めて織る工程まで、
大変な時間と動力、忍耐が必
要です。染織には無縁だった
私は、慣れない仕事に夢中にな
って頑張り、腰を痛め一ヶ
月入院するアクシデントに見
舞われ、織ることはできなく
なりました。

その他の裏方の仕事、家族



伊予がすりに刺繍



ポジャギ (麻布に杏染)



パッチワーク（ジーパンの端切れに刺繍）

のための時間優先で、私の時間は無くなりました。朝家族が起きてくる前に一足早く起き、夜は家族が寝てからが自分の時間。時間を繋ぎ合わせながら自分の手仕事を続けてきました。

主人は杏で糸を染め心を込めて布に織り上げています。手かけた布は生きているように、尊いことを見てきました。私の、物を大切に扱う気持ちは変わりません。主人の染めた糸、織った布、資料として溜めていた絵柄を頂く事ができ、私の作品を作る楽しみも見つけました。

主人は毎年夏に、姨捨に近い麻績村にある信濃観月苑で杏染織展を開催しています。

今回主人と一緒に私の作品展もと望まれ、開催の運びとなりました。私の今までやってきた手仕事を振り返り、主人の作品展と同時に見ていただけますことは、この上もなく嬉しい貴重な体験とっております。



パッチワーク（伊予がすりに刺繍）

窪田 紘子

（くぼた ひろこ）

一九四一年 松山市生まれ

一九六一年

松山市東雲短期大学卒

大妻女子大学 大妻コタカ学長に師事

大妻女子大学 柳葉清子先生に師事

水彩画家古茂田公雄先生に師事

一九七二年 愛媛新聞 家庭欄「暮

のヒント」連載

一九七五年 染織家窪田孟恒と結婚

一九七九年 信濃毎日新聞 家庭欄

「子供のためのリフォーム」連載

一九八七年 松山県立美術館で個展

手芸コンクール受賞歴

主婦と生活社 主婦の友社

草木屋の百色 夜明け

山崎 樹彦



学生の頃、帰省する前に立ち寄った古本屋で祖父山崎斌が編集をした島崎藤村の随筆集を見つけました。札幌から急行に乗り、青函連絡船をはさんで、青森からまた急行に乗り継ぐ旅程で、空が明け始めたのは八戸を過ぎた頃ではなかったかと記憶しています。本の見返しには元の持ち主が書き込んだ文章が刻まれている、上野から汽車に乗り北へ向かう経緯が書かれた後、車窓に広がる夜明けについて、以下のように述べています。

今朝、盛岡の駅にて目覚む。午前四時。空がとても美しかった。有明の月ともいふのだろう、大きく、丸く、そして深い黄色をおびていた。何か南の国のヤシの葉陰に見る月は、あのような色であるように大きく丸いのだろうと思った。朝もやの中で岩手山が黒い眠りの姿を残している。汽車の窓から入る朝の気はとても冷たい。今までに味わわなかった冷たさだ。



藍



五倍子

それに東北のさびれた農村の風景が一層大気に冷たさを加えているのかもしれない。長い汽車のたびでは気持ちのよい朝だった。そのためか、盛岡での弁当もうまかったようだ。とてもあたたかい御飯。それを手にしたとき、なにかうれしい、なつかしい気がした。これもあたりの冷たい気のためであろう。

この美しい朝が、時がたつにつれ平凡な朝になってゆくのが淋しく悲しかった。島崎藤村の言う如く、夜明けは美しくよいものだ。

昭和初期に出版された藤村の本に夜明けの移ろいを書き綴った見知らぬ旅人と同じよ

うに夜明けを車窓から眺め、その人に自分を重ね合わせた記憶は、今も私に人々とのつながりの不思議さと安らぎを与えてくれます。その夜明けの色の記憶は、その後何度も臨んで、それぞれに美しかった夜明けに影響されて、積み重なった記憶になり、夜明けの移り変わる色の中で選んだ一瞬の色が着物の織色として形作られました。

染めた糸は経糸、緯糸ともに、ぐんま200の生繭の座繰糸です。ぐんま200はセリシンが少なく、乾繭にせず、生繭のまま糸にするとより白度が高く、光沢のある糸になります。私の好む透明感があ



▲型染五倍子採り



◀藍の試験布染

り、空気を表すような色の素材としては最高のものだと思います。

経糸は生五倍子の5、6番液の鉄媒染で染めた白鼠です。五倍子はヌルデにつく虫こぶで、9月末から10月初めに最も大きくなり、その時期に中にあるアブラムシが穴を開けて飛び立って行きます。

色素もその頃が質量ともに最も充実します。ヌルデは日のあたる場所に生え、飛行距離の短い虫が冬場を過ごすチョウチンゴケが近場にあることが、五倍子形成の条件となります。生の五倍子の色合いはやや澄んだもので、特に紫味のなくなつた5、6番液は生の五倍子でなければ得られない柔らかい白鼠になります。白々と明ける空を表す色として経糸を選びました。

緯糸は藍の赤紫染です。基準にしている分量と時間は以下の通りです。藍の生葉120gを50℃の水に浸す処理を2時間して染液をつくり、液を濾し、その液を加

熱して沸騰後10〜20分で染液が最も赤くなつた状態で火を止め、ゆっくり温度を下げながら、浸し染めで赤紫を染めます。無媒染です。その色素は高温の水に溶けやすい性質があるので、洗濯は高温の湯や強力な洗剤は避けたほうがよさそうですが、日光や汗には変色しにくいようです。

試験布染では、最初の生葉の処理温度が45℃でも55℃でも良い結果が得られませんでした。また、処理する水量に対して葉が多すぎると色はくすみ、少なすぎると発色が十分ではありません。藍の品種や育て方、採集時期、気候条件によっても葉に含まれる様々な色素などの物質の種類や含有割合が違ってくるので、染料の状態や気温などを見極めながら、微調整をして思つた色を作り出します。

ぐんま200の生繭の座繰り糸は春繭、生五倍子の白鼠は初秋、藍の生葉の赤紫染は盛夏時期の違うそれぞれが巡り会い、重なり合った中で、

夜明けの色が生まれました。古本を通じて、後姿を垣間見た見知らぬ旅人も、そんな夜明けの色を見ただろうと思うのです。

山崎 樹彦 (やまざき たてひこ)



一九五八年 群馬県高崎市生まれ
一九八二年 北海道大学理学部卒
父、山崎青樹の経営する草木染研究所に入所
実務を担当していた叔父、篠崎節に草木染及び草木染型染を学ぶ
二〇一一年 群馬県富岡市妙義町に移住

風土に根ざした草木染の確立に向けて研究、創作を行っている
草木屋代表、草木染伝習所主宰



藍のスケッチ

ギャラリー展

江間廣・凡俱樂部作陶展

5月12日(土)～5月31日(木)

出展／江間廣・陶芸教室会員

草木屋 草木染展

6月24日(日)～7月9日(月)

出展／山崎樹彦・澄子 山崎杜人・山崎美季・山崎 梢

藍友禅 橋詰清貫の世界展

6月8日(金)～6月10日(日)

出展／橋詰清貫

日達れんげ きりえ展「バースデーカード展」

7月14日(土)～8月19日(日)

出展／日達れんげ・チャールズ日達

更級花織工房展～あんずのいのちを絵絣に織る～
窪田紘子の手仕事展

8月24日(金)～8月30日(木)

手仕事展の会場は耕月軒です

出展／窪田孟恒 窪田紘子 協力 永岡真由美

篠田弘明作陶展

9月8日(土)～9月24日(月)

出展／篠田弘明

天山窯 一條隆好作陶展

9月29日(土)～10月15日(月)

出展／一條隆好

ステンドグラス&ガラスアート展

10月18日(木)～10月29日(月)

出展／山口利一

最終日の展示は午後3時まで

冬期間や空いている間に、お宝展、俳句作品展、草木染の展示をすることがあります

観月苑文化講座

参加者募集中

山口勝人写仏教室【第1土曜日】

14:00～16:00

会費／前期・後期とも

各5,000円

講師／安養寺住職山口勝人

芭蕉講座【第3木曜日】

10:00～11:30

会費／月1,000円

(前期・後期とも各6,000円)

講師／「岳」同人窪田英治

小林一茶の講座は3月終了となりました
松尾芭蕉の講座にもどり「更級紀行」「奥
の細道」「奥の細道その後」と辿ります

楽茶碗をつくりましょう！

【2回シリーズ】

6月9日(土)・23日(日)

定員 10名 両日とも1日かけて行います

会費／材料費含め1,500円

講師／天山窯 一條隆好先生

初心者、実作者のための俳句講座
昨年は佐藤文子先生に「俳句甲子園」の
お話をお聞きしました

【夏を予定 各1回(2回出席可)】

会費／一回1,000円 吟行会

にかかる費用は実費負担

講師／「岳」編集長 小林貴子先生

を予定しています

第26回月の里俳句作品募集

募集締切 **8月31日**金

大人 3句一組（何組でも可） 投句料／1組 1,000円
 おおむね小学3年生～中学生 2句まで 投句料無料
 選者／「信濃俳句通信」主宰・佐藤文子
 「黒姫」主宰・神田北童
 「岳」編集長・小林貴子
 「梟」同人・水上孤城

第19回曼陀羅の里 お月見俳句大会

10月6日土

13:00～16:00
 当日句 2句一組（自由題）
 会費／1,500円
 （投句料・聴講料・懇親会費）
 二組目からは500円
 選者／「信濃俳句通信」主宰・佐藤文子
 「黒姫」主宰・神田北童
 「岳」編集長・小林貴子
 「梟」同人・水上孤城

第25回紅葉がりの茶会

9月16日日

受付／10:00（受付終了14:00）
 定員／150名 会費／3,000円（予定）
 清香亭濃茶1席
 表千家流 中曾根宗美社中
 観月堂煎茶1席
 煎茶道黄檗東本流 田中祐鶴社中
 点心席
 この日は通常のお茶席、貸館はありません。

茶室清香亭月釜

松林のなかの茶室にて季節のお点前をお楽しみください。
 時間 10:00～14:00 日時は変わることがあります。
 会費／一席 600円
 点心&お抹茶 2,500円（要予約。3名様以上）

- | | | |
|-----------------|-----------|-----------------|
| 4月29日 日 | 武者小路千家 | 亀の香茶稽古の会（松本市） |
| 5月 6日 日 | 裏千家 | 小林宗智社中（長野市） |
| 6月 3日 日 | 表千家流 | 清流会矢口社中（筑北村）耕月軒 |
| | 裏千家 | 小山宗道社中（長野市） |
| 6月10日 日 | 石州流 | 芳香庵松悠（筑北村） |
| 6月17日 日 | 裏千家 | 島津宗純社中（長野市） |
| 7月 1日 日 | 表千家流 | 鈴木康之（名古屋市） |
| 7月29日 日 | 裏千家 | すみれ会（長野市） |
| | 宗徧流 | 宮田宗恵社中（長野市）観月堂 |
| 10月21日 日 | 煎茶道 黄檗東本流 | 長瀬鶴早社中（中野市） |





みんなで歌いましょう！ 合唱指導とテノール独唱

6/17 14:00
目 ~ 16:00

場所／月の館大寄せの間
講師●テノール独唱／島津 和しまづ かずへい平
ピアノ伴奏／関崎 千せきざき ちなみ奈美

インドネシアと インド舞踊の会

8/25 8/26
土 日
14:00 ~ 15:30

場所／月の館大寄せの間
インドネシア舞踊／宮下デヴィ、桜井ソフィア（インドネシア舞踊 ヌサンタラ）
インド舞踊／窪田汐里、森川邦子（南インド舞踊、ヌリッティアンジャリ舞踊団）



奥村 美佳ピアノコンサート

9/1 土

場所／月の館大寄せの間
参加費／おとな 1,500円 ピアノ／奥村 美佳
演奏予定曲目 ショパンを中心に

14:00
~ 15:30

遠山 望・今井 千波 デュオリサイタル

11/11 日

場所／月の館大寄せの間 参加費／おとな 1,500円

サクソフォン／遠山 望 ピアノ／今井 千波

ゲスト●トロンボーン・編曲／宮川 俊みやがわ としのり徳

演奏予定曲目 ムソルグスキー「展覧会の絵」より

14:00
~ 15:30



MAI & ダブルファンタジー コンサート

10/27 土 14:00
~ 16:00

場所／月の館大寄せの間 参加費／おとな 1,000円 オリジナル曲を中心にジャズやシャンソンも



山口利一ギターコンサート

10/28 日 14:00
~ 16:00

場所／月の館ギャラリー

スペイン、南米の曲などをギターソロで

第二十五回月の里俳句入選作品

一般の部

佐藤文字選

特選	秀逸
夕立や背なに湯気立つ放牧牛 励ましてさびしくなりぬりラの花	現世に疑問符を置き蚯蚓死す 解きたる髪に花火の匂ひかな 糠床に塩たつぷりと敗戦日
石橋 博雄 小川恵美子	吉池 史江 北沢 雅子 井坂 一炷

神田北童選

特選	秀逸
吾亦紅ばつんと風の来る高さ 硝子吹く火色の汗を飛ばしをり	向日葵へ行つてきまあす園児帽 村歌舞伎つと見得を切る鬼やんま 蒼き夜の棚田千枚虫浄土
西川 房子 松尾久美子	中村 百仙 吉池 史江 山口 蒼峰

小林貴子選

特選	秀逸
蜘蛛の囀といふ柔らかき凶器かな 一水を隔て流燈すすみゆく	おたまじやくしひとつひとつが如来の子 夏の果家のどこかに崩えの音 遠雷のこころの闇に響きけり
小谷 一夫 北沢 雅子	黒沢 孝子 山崎 妙子 古林 孝子

水上孤城選

特選	秀逸
白玉や恋人未満の間合とり 教壇のなき教室や燕来る	鶴帰る黄泉までゆかば逢へる人 腥き風を鎮めてつくつくし 面影やをとこようぞめ赤き実に
中村 百仙 山崎 妙子	小谷 一夫 市川美八子 小伊藤美保子

佐藤文字選

特選	秀逸
風がふき桜の旅の幕開けだ ま夜中に名月見るといのり出す	お月様さよなら言わずきえちやった さくらんぼいつもいっしょにいるんだよ おどりたいおどつちやおうよなつまつり
共和小学校 六年生 青柳 優菜 共和小学校 四年生 飯塚 智徳	麻績小学校 四年生 飯森 愛姫 麻績小学校 三年生 大はたり 央 共和小学校 二年生 くり林れな

神田北童選

特選	秀逸
流れ星願いを乗せてく列車かな せんぼうき夏のヒーロー使おうね	ほうせんかつぶして爪にネイリスト みどり色きもちよさそうはっぱさん 風がふきあいさつ交わすすすき達
共和小学校 六年生 酒井 璃美 麻績小学校 三年生 町田かける	共和小学校 五年生 内山 七海 共和小学校 二年生 みうらさやか 共和小学校 六年生 山下 はな

小林貴子選

特選	秀逸
夏になり小アジシロギス釣りまくる なつやすみじゆうけんきゆうパフェづくり	ふきのとうしびいあじがねやみつきだ ほうせんかつぶして爪にネイリスト 花火咲き光の種が舞い落ちる
麻績小学校 六年生 坂野さくら 共和小学校 二年生 村さわみどり	共和小学校 四年生 齊藤 永真 共和小学校 五年生 内山 七海 共和小学校 六年生 渡邊 煌太

水上孤城選

特選	秀逸
流れ星星座がうった弓矢かな 夏の夜家族みんなで星さがし	ミンミンとわたしのしきでコンサート 紅葉の海にのまれる僕の町 なつになりみんながえがおむしたちも
共和小学校 六年生 石井 花音 麻績小学校 三年生 たかの心こみ	共和小学校 二年生 とだてこは 共和小学校 六年生 古田 旭 麻績小学校 六年生 高沢妃菜乃



耕月軒の降りつくばい

耕月軒の楓

小学生の部

信濃観月苑をご利用ください

広く文化活動や研修会、お茶会等にどうぞ
お問い合わせ・ご予約 TEL/FAX 0263-67-3933
メール kangetsu@vill.omi.nagano.jp

小間の茶室「清香亭」

■利用料金/1会 10,000円



ギャラリー

展示発表の場としてご利用ください。

■利用料金/半日 5,000円・1日 10,000円



観月堂

お茶会、句会、月見の宴などにご利用ください。

■利用料金/半日 5,000円・1日 10,000円



大寄せの間

(2F 40畳和室) ステージ付

お茶会、お稽古、句会、研修会、コンサート会場などにご利用ください。

■利用料金/半日 3,000円・1日 6,000円



広間の茶室「耕月軒」

■利用料金/半日 5,000円・1日 10,000円

お抹茶 600円
点心 2,000円(3名様より。要予約)

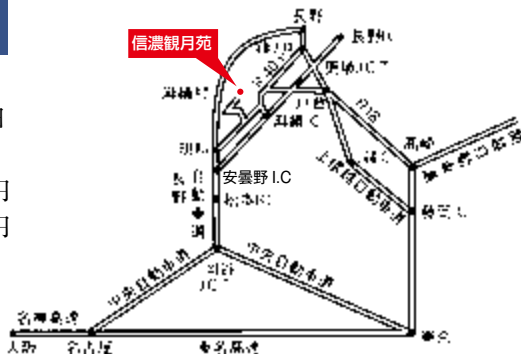
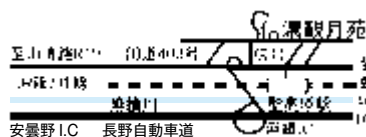
グランドピアノ KAWAI GM-10

■利用料金/半日 5,000円・1日 10,000円

信濃観月苑

長野県東筑摩郡麻績村〒399-7701
TEL/FAX (0263) 67-3933

開苑時間 午前9時～午後5時
休苑日 毎週火曜日(火曜祝祭日は開苑、水曜休苑)
入場料 個人 高校生以上 300円
 小人 150円
 団体 20名以上2割引



麻績村のホームページ <http://www.vill.omi.nagano.jp>

表紙／一步一步歩んだあとに清風が
起こるとは、窪田夫妻の生きかたそ
のものなのです。